

基幹総合病院の特性を活かした 精神科医療の提供を行います

「特徴」

- ◇ 体のつらさと心のつらさは相互に影響します。総合病院の精神科として、他の診療科と連携した診断・治療を行っています。
- ◇ 脳神経内科の「もの忘れ外来」と協力し認知症疾患の診断、治療等の診療を行っています。
- ◇ 新病院では身体合併症治療が行える精神科病棟ができます。

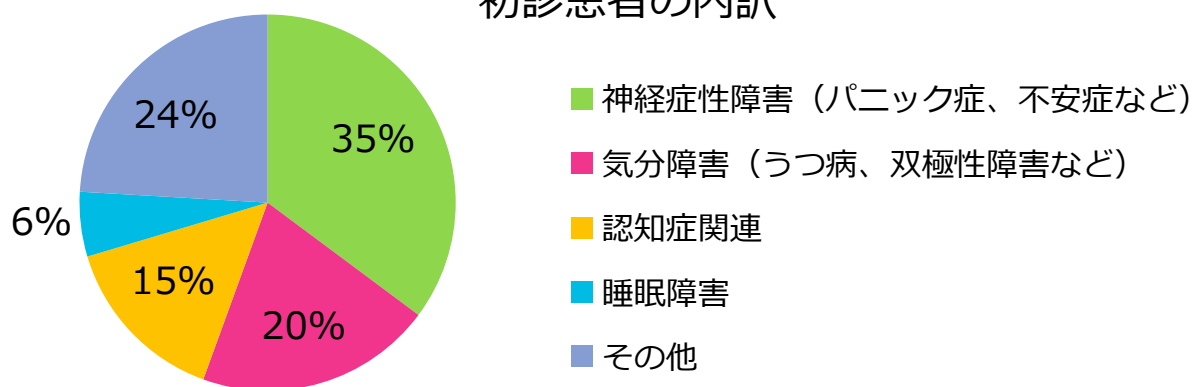
「トピックス」

- ◇ **院内の認知症・せん妄対策**：入院患者の80%が65歳以上であり、高齢患者の救急入院や手術治療は増加の一途をたどっています。平成28年4月から稼働している「認知症ケア・せん妄対策チーム」では多職種横断の医療チームとして入院患者の認知症とせん妄の対策を行っています。せん妄予防対策の一環として、ベンゾジアゼピン系薬剤の中止を積極的に行っており、ご紹介いただく患者さんの処方調整させていただくことがあります。
- ◇ **広島市自殺未遂者支援コーディネート事業**：国の自殺対策大綱に従い、広島市では救急受診した自殺未遂者への支援を積極的に行い、将来の再発を予防する目的で支援を行う事業をはじめました。当院では平成30年4月より運用を開始し、コーディネート担当の医療ソーシャルワーカーと協働し、自殺関連で救急入院をした患者の対応を行っています。
- ◇ **周産期妊産婦に対する精神科医療連携**：産後うつの問題など、妊産婦の精神的ケアの必要性が高いことから、産婦人科外来では平成29年秋より妊産婦の抑うつ・不安のスクリーニング（エジンバラ産後うつ病自己評価表）を導入しています。精神症状を有するハイリスク妊産婦に対して産婦人科と連携を取りながら対応しています。
- ◇ **FAXによる精神症状相談**：令和3年7月より、安佐医師会との連携事業として、不眠やせん妄、認知症の問題行動等への対応の相談をFAXで回答するサービスを始めました。

「診療実績」

2020年度は精神科外来の初診患者54名のうち、36名（67%）が医療連携による紹介で、そのほとんどは安佐医師会及び隣接地域の医師会に所属されている医療機関からでした。初診患者の内訳は、高齢化を背景に初診患者の15%が認知症関連であり、他に神経症性障害（パニック症、不安症など）35%、気分障害（うつ病、双極性障害など）20%、睡眠障害6%となっています。

初診患者の内訳



「こんな症状ご紹介ください」


総合病院の特性を活かし、身体面の問題にも十分配慮した診療を行います。特に新病院では精神科病棟ができる予定であり、統合失調症・うつ病・認知症のある患者でも、がん、肺炎、骨折などの合併症に対してより充実した治療がおこなえるようになります。認知症の診断等についても継続しておこなっておりますのでご紹介ください。

広島市立安佐市民病院 精神科 医師スタッフ紹介

こばやかわ まこと 小早川 誠 (H10 卒)	精神科主任部長 〔精神科一般・リエゾン精神医学・精神腫瘍学・緩和ケア〕
もりのぶ しげる 森信 繁 (S57 卒)	精神科非常勤嘱託医師 吉備国際大学教授 〔精神科一般・感情障害〕
おかの こうじ 岡野 浩二	精神科主任技師 公認心理師 臨床心理士

広島市立安佐市民病院 精神科 外来診療案内

	月	火	水	木	金
1 診	小早川 (再診)	小早川 (再診)	小早川 (初診・再診)	小早川 (初診・再診)	小早川 (再診)
2 診	森信 (初診・再診)				

 は予約診療不可